

情報処理科・経営管理科 2年 A・B・C・D組

教科	理科	科目(単位)	生物基礎 (2単位)
使用教科書	「改訂 新編生物基礎」 (東京書籍)	補助教材等	ニューサポート 改訂 新編生物基礎 (東京書籍)

1 科目のねらい(目標)

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実感などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、化学的な見方や考え方を養う。

2 科目・授業の内容と進め方

中学校で学習した内容を基礎として、DNAなど現代生物学の基礎となる内容や、ホルモンや免疫などの健康に関わる内容、生態系などの環境に関する内容を通して、日常生活や社会と関連させて身近な生物や生物現象について、興味・関心を持てるようにします。

学習は、教科書を中心に学習します。ノートを1冊用意して、授業内容やポイントをまとめてください。進度に合わせて、可能な限り実験・観察・実習を取り入れます。

わかりやすい授業を心がけますが、もしわからないところが出たときは、必ずその時間内に解決するよう心がけましょう。

宿題は原則出しませんので授業を大切にしてください。ただし定期テスト以外にも必要に応じて小テストを行います。また長期休暇中には課題も出します。

3 学習の方法

教科書を中心に、授業を進めていきます。必要に応じて、中学の復習も取り入れます。授業に集中し、授業の内容、板書等はノートにまとめるようにしてください。定期考査ごとに提出があります。また、プリントを用いた学習も行います。

ふだんは予習も復習も特に必要ありませんが、小テストがある場合だけは、30分でよいので家庭学習をしてください。とにかく授業時間が勝負です。常に問題意識を持ち授業に臨んで下さい。毎時間、毎時間、探求心を持って、新しい発見と新しい疑問が生じるような授業をあなたが作ってください。質問は大歓迎です。もしわからないところが生じた場合は、その時間内に解決するよう心がけてください。定期テスト前は必要に応じて補習も行います。

実験・観察は、その時間の態度や行動がとても大切です。実験の目的をよく理解し、細心の注意を払って、積極的に臨みましょう。実験レポートは、そのまとめ方が重要になってきますので、真剣に取り組み必ず提出しましょう。

4 課題・補習について

- ・長期休暇には課題を出します。詳しくはその時期に連絡します。
- ・最低限必要な基本事項は小テストを実施します。合格するまで追試を行います。
- ・テスト前に限らず、質問はいつでも受け付けます。授業中に解決できなかったときは、早めに聞きに来て下さい。またテスト前に必要に応じて補習や補充授業を実施します。

情報処理科・経営管理科 2年A・B・C・D組

教科名	理 科	科目名	生物基礎 (2単位)
-----	-----	-----	------------

5 年間の学習計画

月	単元名	学 習 の 内 容	評価方法 (課題等)
4 5	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 ①多様性と共通性とは ②細胞にみられる多様性と共通性 2章 生命活動とエネルギー ①生命活動を支える代謝 ②代謝を進める酵素 ③生体内のエネルギー変換 ④葉緑体とミトコンドリアの起源	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・生物の多様性と共通性をあげることによって生物の特徴について理解する。 ・細胞の構造を知ることにより、原核細胞と真核細胞、動物細胞と植物細胞の共通性と多様性を理解する。 ・細胞内でのエネルギーの受け渡しに、ATPが関わっていることを理解する。 ・呼吸と光合成の仕組みを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・授業ノート ・授業プリント <p>前期中間考査</p>
6 7	2編 遺伝子とのはたらき 1章 生物と遺伝子 ①DNAの構造 ②DNAとゲノム 2章 遺伝情報の分配 ①細胞分裂におけるDNAの複製と分配 ②DNAの倍加 ③DNAの正確な複製 3章 遺伝情報とタンパク質の合成 ①DNAとタンパク質合成 ②遺伝子の発現と生命現象	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での既習事項である遺伝子の本体がDNAであることや遺伝子の変化によって形質が変化することについて確認する。 ・DNAの構造や、塩基配列が遺伝情報であることを理解する。 ・体細胞分裂の過程について、染色体の動きを追いながら理解する。 ・塩基配列の複製方法とタンパク質合成の仕組みについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・授業ノート ・実験プリント <p>・夏期課題</p>
8 9	3編 生物の体内環境の維持 1章 体内環境の維持 ①体内環境と体液の循環 ②恒常性と血液 ③体内環境を調節する器官	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での事項である、循環系・血液の成分・肝臓と腎臓のはたらきについてふりかえる。 ・血液成分、腎臓、肝臓の仕組みとはたらきについて理解する。 	<p>前期期末考査</p>
10 11	2章 体内環境を保つしくみ ①自律神経系による調節 ②ホルモンによる調節 ③自律神経系と内分泌系による協同作業	<ul style="list-style-type: none"> ・自律神経系の分布とはたらきと、交感神経と副交感神経が拮抗的にはたっていることを理解する。 ・ホルモンは何かということと、はたらきと性質について理解する。 ・血糖値が、自律神経のはたらきやホルモンの作用により一定の範囲に保たれていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・授業ノート ・実験プリント <p>後期中間考査</p>
12 1 2 3	3章 体内環境を守るしくみ ①免疫のシステム ②免疫とヒト 4編 生物の多様性と生態系 1章 植生の多様性と遷移 2章 バイオームとその分布 3章 生態系とその保全	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように病原体から身を守り、体内環境を維持しているのか理解する。 ・免疫システムを応用した感染症の予防や治療としての、予防接種、血清療法について理解する。 ・免疫反応の異常によるアレルギーやエイズについて理解する。 ・生物の集団と非生物的環境が互いに関係して、生態系をつくっていることを理解する。 ・生態系は多種多様な生物によって構成されており、それぞれの生物が役割を担っていることを理解する。 ・生態系において物質が循環すること及びそれに伴ってエネルギーが循環することを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冬期課題 ・授業態度 ・授業ノート ・実験プリント <p>学年末考査</p>